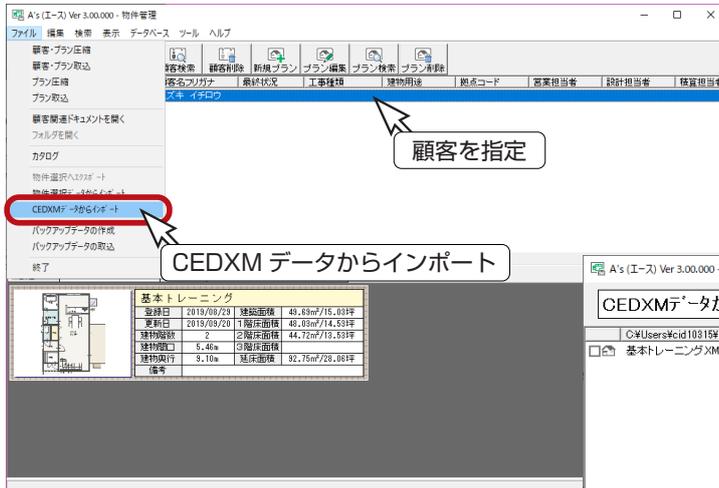


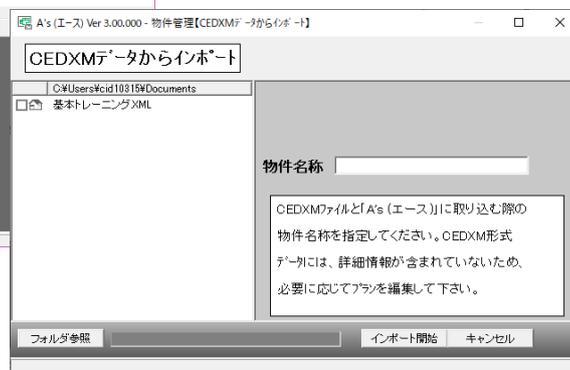
CEDXM(シーデクセマ)連携

CEDXM のデータを、A's (エース) で読み込んだり、A's (エース) のデータを、CEDXM 形式で出力することができます。CEDXM は、プレカット CAD 連携のために開発されたフォーマットです。

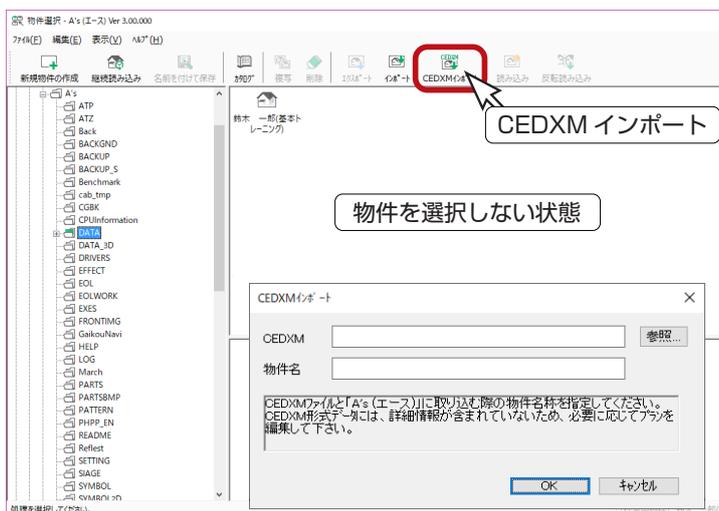
CEDXM インポート (物件管理)



物件管理にて、顧客を指定してから、「ファイル」⇒「CEDXM データからインポート」を選択します。新規の顧客にインポートする場合は、事前に顧客を登録します。取り込む CEDXM データ、及び A's (エース) での物件名称を指定してインポートします。



CEDXM インポート (物件選択)



物件選択にて、物件を選択しない状態で、

 (CEDXM インポート) をクリックします。

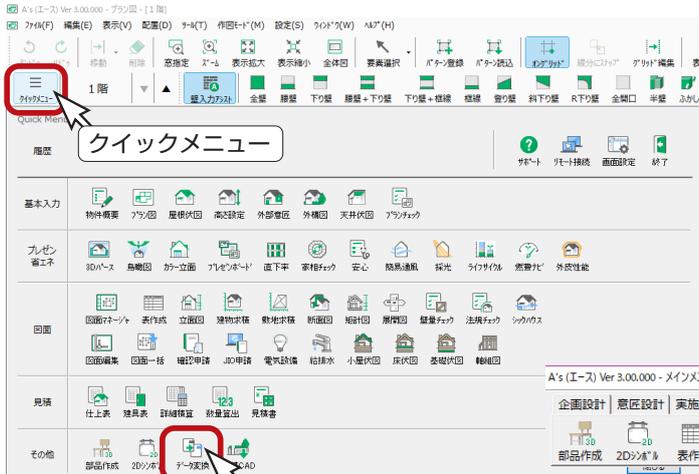
「編集」⇒「CEDXM インポート」を選択してもかまいません。

* 物件を選択している状態だと、「CEDXM インポート」はグレー化して選択できません。

取り込む CEDXM データ、及び A's (エース) での物件名を指定してインポートします。

インポート後は、必要に応じて、「プラン図」で編集を行ってください。CEDXM データには、建具情報、部屋属性がありませんが、通風、採光、ライフサイクルコストの各シミュレーションでは、開口サイズを取得できますので、そのまま利用することができます。

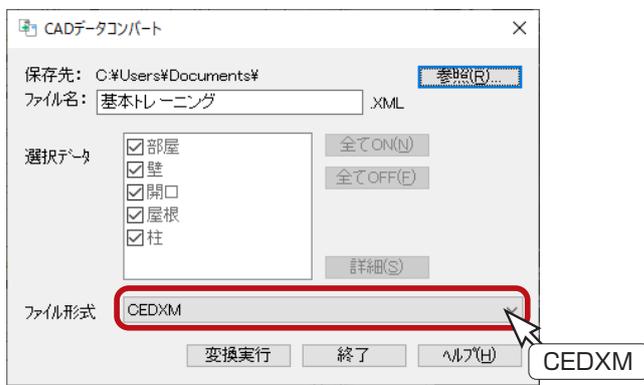
CEDXM エクスポート (CAD データコンバート)



エクスポートの前に、次項の注意点をご確認ください。

クイックメニュー、またはメインメニューの (データ変換) をクリックしてください。メインメニューでは、「ツール・他」タブにあります。

ツール・他



CAD データコンバートが起動します。ファイル名、選択データを設定後、ファイル形式を「CEDXM」にして、「変換実行」をクリックします。

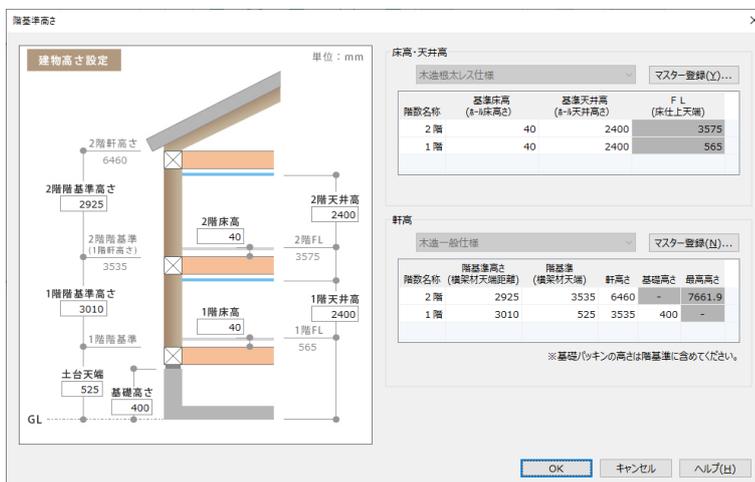
選択データに構造情報は含まれないため、Wallstat 等の耐震シミュレーション等にはそのまま使用できません。

CEDXM エクスポートの注意点

プレカット CAD 連携をスムーズに行うために、エクスポートの前に、以下の内容をご確認ください。

■ 高さ情報の確認

「高さ設定」の「階基準高さ」で設定されている情報が、正しいことを確認してください。この画面で設定されている情報が、CEDXM ファイルに出力されます。



新規物件の作成時（「プラン図」を起動する前）は、物件概要の 4/4 ページの「建物高さ」で設定した情報が、物件データの初期値になります。

■ 壁／柱は、オングリッドで入力

「プラン図」で壁／柱／開口等を入力するときは、オングリッドで入力してください。
間崩れがある場合は、補助線を引いて入力します。

- * オングリッドを外した状態で入力すると、壁／柱／開口等の各情報が不正確な情報として出力されてしまいますので、ご注意ください。

■ 柱のサイズは、実寸法を指定して入力

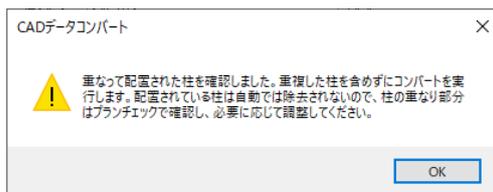
「プラン図」で配置した柱のサイズが、CEDXM ファイルに出力されます。

- * パースや図面作成のために、実寸法とは異なる柱サイズで入力している場合は、ご注意ください。

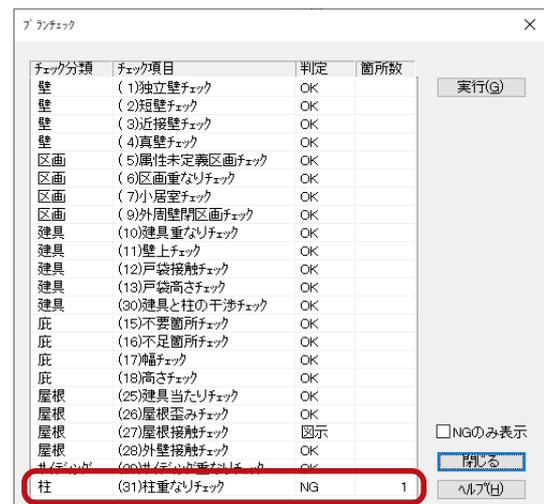
1Fの通り柱と同じ位置に、2Fに管柱が配置されている場合、2Fの管柱をCEDXMファイルに出力しません。また柱が重なって配置されている場合は、CEDXMファイル出力時に警告が表示されます。「プランチェック」で柱の重なりをチェックしてください。

- * A's (エース) Ver 3.00.004 以前のプログラムでは、特定の操作を行うと柱が重なったまま CEDXM 出力されてしまう現象がありますので、最新版にアップデートしてご利用ください。

警告



プランチェック



■ 柱の重なりについて

A's (エース) では、同じ位置に柱が配置されないように制御しています。

- * 手動配置では、配置済みの柱と同じ位置に柱を配置した場合、配置済みの柱を削除してから配置されます。
- * 自動配置では、通り柱を配置した位置には、2Fで隅柱／管柱は配置されません。

ただし、以下の操作手順では、柱を重ねて配置できますので、ご注意ください。

- * 1Fで通り柱を配置した位置に、2Fで管柱を手動配置できます。
- * 2Fで管柱を配置した位置に、1Fで通り柱を手動配置できます。
- * 移動／複写コマンドを使用すると、柱が存在する位置に柱を移動／複写できます。